



# 複合的な視点で、地球規模の問題解決に貢献できる人材を育てる

上智大学 総合グローバル学部 総合グローバル学科

## 10人程度の少人数で、議論を深める手法について学びました

1年次の「グローバル・スタディーズ基礎演習」では、論文の書き方や議論の仕方などを学びます。議論する際は何に対して反論するのかを明らかにしてから、自分の主張を伝えるといった視点が身につきました。(佐藤さん)



## ワシントンD.C.でのインターンシップを通じて、現地で活躍する先輩と交流

2年次の夏に、ワシントンD.C.のシンクタンクでインターンシップを経験。期間中、現地で活躍する先輩に会う機会があり、自分も英語力や専門性を磨き、世界を舞台に働きたいと思いました。(横井さん)

## ラテンアメリカのフェミニズムについて研究中

ラテンアメリカにおいて、女性の政治参加は進んでいるものの、「女性であること」が原因の殺人が増えており、ゼミでは、その理由について研究中。専門科目でマジョリティーの立場を学び、研究を深めています。(横井さん)



## グローバルとローカル、 双方から考える

上智大学総合グローバル学部総合グローバル学科は、「国際関係論」と「地域研究」、さらにそれら2つを融合させた「グローバル・スタディーズ」(\*)を学び、グローバルとローカル、2つの視点を併せ持つことで、地球規模の問題解決に貢献できる人材の育成を目指している。

1年次は、「国際関係論入門」「地域研究入門」「グローバル・スタディーズ入門」を必修科目とし、3分野を横断的に学ぶ。総合グローバル学科4年生の佐藤誉翼さんは、分野横断で学んだ意義をこう話す。

「私は、幼少期、イスラエルに住



総合グローバル学部  
総合グローバル学科4年  
**佐藤 誉翼**  
さとう・よはね  
カナダのWinston Churchill High School卒業。中東研究に関心があり、入学。



総合グローバル学部  
総合グローバル学科4年  
**横井 桃子**  
よこい・ももこ  
愛知県・私立金城学院中学校・高校卒業。国際関係論に関心があり、入学。

\* 1 グローバル化した世界の理解を目指す新領域の学問。グローバルな動きに目を向ける「国際関係論」とローカルな事象に焦点をあてる「地域研究」の両面から世界を捉える。

んでいました。自分の育った地域を抱えている国際問題に、次第に関心を持つようになりました。ただ、どの分野を学びたいのかまでは定まっておらず、1年次に政治、経済など、様々な分野を学ぶ中で、自分は思想や宗教から中東研究をしたいと、専攻を絞り込むことができました」

2年次からは、専門科目の履修を開始し、秋学期に「国際関係論」系の2領域（国際政治論、市民社会・国際協力論）と「地域研究」系の2領域（アジア研究、中東・アフリカ研究）から、自分がメインで研究したいメジャー領域とそれを補完するマイナー領域を選択する（\*2）。

総合グローバル学科4年生の横井桃子さんは、メジャー領域では「国際政治論」を、マイナー領域では外国語学部で開講されている「ラテンアメリカ研究コース」を選択した。

「第2外国語でスペイン語を履修したことがきっかけで、ラテンアメリカに興味を持ちました。ラテンアメリカについて、メジャー領域では国際政治の面から、マイナー領域ではフェミニズムの問題の面から考えることができ、視野を広げながら学んでいます」（横井さん）

学生は、どこに力点を置くのかを考えながら学びを深め、自分の進路を定めていく。

### 低学年次から主体的な学びを進める「自主研究」

同学部には、2年次以降、自分の設定した課題について、担当教授の指導の下で研究を進める選択科目「自主研究」がある。意欲的な学生が多い同学部ならではの科目で、低学年次から主体的な学びができるように設置されている。佐藤さんも同科目を履修した1人。

「教授との対話を通じて、研究テーマがより明確になり、中東における宗教と経済の互恵関係を学ぶことにつながりました」

### 批判的・複合的な視点を持ち、卒業研究に取り組む

3年次からは、専門科目を履修しつつ、演習で各自の研究を深めていく。佐藤さんは、中東研究が専門の赤堀雅幸教授のゼミで学んでいる。

「ゼミで論文の深い読み方を学びました。赤堀教授の『この論文は評価されているが、欠けている視点が。それはどんな点か』といった

問いから、批判的視点を持つことの大切さに気がつきました」

横井さんは、国際政治のゼミに入り、ラテンアメリカのジェンダーに関して研究を進める一方、授業外でも学びを広げているという。

「性的同意の重要性を啓発する活動を行うサークルを立ち上げました。また、国際連合の女性機関でインターンシップもしています。それらの活動を通して、自分は女性のために働きたいという考えの下で就職活動を行い、働き方改善のためのソリューションなどを開発する外資系のIT企業から内定をいただきました。自分の進むべき指針となるパッションを大学時代に見つけられたことに感謝しています」（横井さん）

佐藤さんは、地域研究の視点を生かしたマーケティングを行いたいと考え、海外進出する日本企業を支援するIT企業に就職予定だ。

「日本企業の海外進出がうまくいかないのは、進出先についての地域理解が足りないからだと考えられます。市場調査では、データマーケティングが主流ですが、地域研究など、ミクロの視点も重視した分析をしていきたいです」（佐藤さん）

## 大学の思い

### 将来像や興味に応じて、自分なりに学びをデザイン



総合グローバル学部  
総合グローバル学科  
教授  
丸井雅子  
まるい・まさこ

本学部では、「国際関係論」「地域研究」の双方の視点から学び、自分の関心がある課題について、どのようなアプローチを組み合わせて研究することが最適なのかを考えられる環境を用意しています。

私の専門は東南アジア考古学と文化遺産研究のため、ゼミで文化遺産について研究したいという学生がいました。その学生は、メジャー領域は「アジア研究」、マイナー領域は「国際政治論」を選択し、文化遺産にかかわる国際法や国際関係論を学んでいます。そのように、1つのテーマを複合的な視点で学ぶことが可能です。

また、外国語学部の演習や、他学部の授業も履修可能で、一人ひとりの将来像や興味・関心に応じて、幅広く学びを進められます。

2020年度秋からは、英語による学位取得プログラムのコースを新設する予定です。同コースでは、学部内の専門分野と他学部の一部科目を英語で学ぶことが可能です。幅広く柔軟に、かつグローバルに学びたい学生の入学を期待しています。

\*2 マイナー領域は、メジャー領域として選択しなかった系から、1つの領域を選択する。「地域研究」系をマイナー領域にする場合、外国語学部で開講されている研究コースをマイナー領域として履修することも可能。